

令和4年度 認知症初期集中支援チーム 活動報告

資料3

(R5年2月28日現在)

	No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	診断名	対応結果
令和3年度からの継続事例	1	女	82	本人	地域包括支援センター	R3年8月	R4年6月	認知症以外の疾患で受診	同居家族の支援を受けながら生活できている一方で、症状が進んでいる。そのため、人との交流や活動を増やし進行を遅らせる目的で、デイサービス等の利用を目標に支援を実施。介護認定申請したが、サービス利用については本人の希望がなかったため、担当包括に支援を引継ぎ、チーム支援を終了。必要時に再介入することとした。
	2	男	74	家族	地域包括支援センター	R3年10月	R4年4月	アルツハイマー型認知症	認知症の初期症状がみられるが、医療機関未受診・介護サービス未利用であった。チーム支援により専門医を受診し、認知症の診断を受けることができた。本人も必要性を理解され、デイサービスの利用を開始。利用状況が安定したため、担当包括とケアマネジャーに支援を引継ぎ、チーム支援終了。
	3	女	88	民生委員	地域包括支援センター	R3年12月	R4年8月	認知機能低下は無し。妄想性障害(疑)	独居。もの忘れ、物盗られ妄想の症状あり。支援開始直後に圧迫骨折を生じ、介護認定申請し訪問型サービスの利用開始。もの盗られ妄想の症状が悪化した。が、専門医を受診し鑑別診断を受けることができた。介護サービスも継続して利用できているため、担当包括に支援を引継ぎ、チーム支援終了。
	4	女	74	家族	家族	R3年12月	R4年7月	認知症以外の疾患で受診	認知症の初期症状、活動意欲の低下あり。家族としては、認知症の診断を受け、介護サービスの利用を望むが、本人拒否のためチームへの支援を依頼。介護認定申請はしたが、サービス利用は拒否。家族も現状を受入れ、無理に進めることはしない意向。必要時に再介入することとし、チーム支援終了。

	No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	診断名	対応結果
令和3年度からの継続事例	5	女	83	民生委員	地域包括支援センター	R3年12月	R4年7月	認知症	金銭管理やごみ捨て等ができなくなり、医療機関未受診・介護サービス未利用の状況で支援開始。担当包括と連携し、金銭管理サービス等の利用手続きを進めた。本人の困り感が少しずつ表出され始めたことから、医療機関の受診・介護認定申請を行うことができた。介護サービス利用を開始されたため、担当包括に支援を引継ぎ、チーム支援終了。
	6	女	74	家族	地域包括支援センター	R4年1月	R4年6月	認知症	夫からの相談に、担当包括が長期間対応していた。アルツハイマー認知症の診断を受けているが、介護サービス利用は拒否的。チーム支援を開始し、本人の了解を得て訪問型・通所型のサービス利用を開始。介護サービス利用が安定したため、担当包括・ケアマネジャーの支援に引継ぎ、チーム支援終了。
	7	男	75	本人	地域包括支援センター	R4年1月	R4年6月	認知症	妻の認知症について担当包括へ度々相談されるが、具体的な対応策を提案しても進まず。掃除や調理ができないため妻と二人の生活が困難な状況であった。チーム支援により医療機関受診、介護認定申請の手続きができ、介護サービス利用開始。利用状況が安定したため、担当包括・ケアマネジャーに支援を引継ぎ、チーム支援終了。
	8	女	79	薬局	地域包括支援センター	R4年2月	R4年7月	脳血管性認知症	薬局で薬を受け取ったことを忘れて再度来局。職員が対応すると激昂し、その後来局されず。チーム支援により主治医と連携し、複数の医療機関での処方を一包化。また、薬剤師の訪問による服薬支援を開始後、混乱状態が落ち着く。本人の意向で介護認定手続きをしたが、服薬以外で生活に支障がないため、介護サービス利用には至らず。担当包括と薬剤師による支援に引継ぎ、チーム支援終了。必要時に再介入する。

	No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	診断名	対応結果
令和4年度新規	1	男	69	警察	地域包括支援センター	R4年4月	R4年7月	高次脳機能障害	記憶障害、金銭管理ができない等の認知機能低下あり。多量のアルコール摂取や脳梗塞の既往はあるが、治療継続せず。現在、医療機関未受診・介護サービス未利用。金銭管理の支援をするが、食料の買い出しができないため、担当包括が付き添っていた。チーム支援としては医療機関の受診を目指していたが、病状の悪化により在宅生活が困難になる。サービス付き高齢者住宅への入所を期にチーム支援終了。
	2	女	76	病院	地域包括支援センター	R4年10月	R5年1月	認知症	夫と二人暮らし。短期間に二回、外出先にて脱水症状等で救急搬送される。認知機能の低下があり、介護認定申請するがサービス利用は拒否。夫も他者の支援介入を希望しないため、チーム支援は必要時に再介入することとし、担当包括に支援を引き継いだ。
	3	男	82	なし ※令和4年度新規No.2の支援介入時に把握	地域包括支援センター	R4年10月	R5年1月	老年期認知症	妻と二人暮らし。他の身寄りなし。妻が外出先から救急搬送されたことを契機に、妻と同時に支援を開始。認定申請を行うことができた。短期記憶の低下がみられるが、生活に支障なし。妻と二人での在宅生活に対する希望が強く、他者の支援介入は望まない。チーム支援は必要時に再介入することとし、担当包括に支援を引き継いだ。
	4	女	80	警察	地域包括支援センター	R4年10月	R5年2月	アルツハイマー型・脳血管性混合型認知症	屋外で寝ていたところを警察に保護され、介護認定申請するがサービス利用は拒否。家族と連絡が取りづらくなか、チーム支援開始。デイサービスの体験利用まで調整したが、本人の意向により利用継続できず。別事業所の体験利用を調整中に家族と音信不通になる。本人とは電話で安否を確認。家族からの再相談を待つこととし、チーム支援終了。安否確認は担当包括が継続する。

	No.	性別	年齢	初回相談者	相談経路	支援開始	支援終了	診断名	対応結果
令和4年度新規	5	女	75	家族	地域包括支援センター	R4年12月	支援中	—	被害妄想が強いことで、娘との関係が疎遠になり、相談者である息子のみに関わりを保っている。家族としては医療機関受診を希望。チーム支援にて、本人との信頼関係を築きながら、生活や受診状況の確認を目標に支援実施中。
	6	女	83	家族	地域包括支援センター	R5年1月	支援中	アルツハイマー型認知症	同じものを大量に購入する等、金銭管理に支障が出ている。服薬管理は夫が担う。体調不良を期に本人の意向に変化があり、デイサービスの体験利用を調整できた。引き続き担当包括と連携し、権利擁護と介護サービス利用継続を目標に支援を実施中。
	7	女	83	友人	地域包括支援センター	R5年1月	支援中	—	半年前から入浴や着替えができておらず、もの忘れの症状もみられる。長年の友人より介護サービスを利用し、生活を整えられないかとの相談があり、チーム支援開始。本人との信頼関係を築きながら、まずは生活や受診状況の確認を目標に支援実施中。